

「ちくし学び舎ネットワーク」看護を分かち合い看護の連携を深めよう

平成24年より、筑紫地区にある医療機関の4病院（済生会二日市病院・邦生会高山病院・医療法人小西第一病院・福岡大学筑紫病院）で、看護師が施設を越えて教育を通じた連携を図ることにより、施設間の繋がりの強化や、地区全体の看護の質向上を図ることを目的として活動しています。組織を越えて学び合い、その力を十分に発揮するため、コンセプトは「看護師は、一施設の人材ではなく地域全体の人材である」として

います。
年2回の研修では、臨床の現場の人材育成や看護の語りをグループワークを主体に実施しています。
また、毎年11月には、看護研究・看護実践発表会を開催しています。施設や領域を超えて、この地域の患者さんが繋がる継続看護に結び付けていく力にしています。



看護研究・看護実践発表会

ちくし



看護部紹介

看護部長 樋口 靖子



看護部理念 「人間性豊かな患者中心の看護を実践する ー誠実・責任・創造ー」

看護の力で選ばれる病院として 心を一つに「命・生活を支え・つなぐ」ONE TEAM

当院は、昭和60年に開院、平成25年に更なる医療の充実と発展を目指して新病院を開院し、8年目になります。大学病院として高度かつ先進的な医療を行うとともに、地域医療支援病院として地域に密着した急性期医療の使命を持ち、地域の方々の信頼や期待に応えられるよう安全で安心な質の高い医療への貢献を目指しています。

看護部は、患者さん家族の代弁者として、創造を持って看護の力を発揮し、患者さんの未来を支える生活の支援者として現場を支える組織形態としています。3年前には新たなフェーズを見据えて、副看護部長を総務、業務、教育の3本柱で3名としました。そして看護部の

理念である『人間性豊かな患者中心の看護ー誠実・責任・創造ー』を実現し、看護の力で選ばれる病院になることを目指します。

私たち看護部が果たさなければならないことは『命・生活を支え・つなぐ』というプロフェッショナルとしての意識を高く持ち、患者さんに「あなたに出会えてよかった」と満足して頂ける看護を提供することです。

私たちは、豊かな人間性と倫理観を持ち、自律した看護師育成を目指し『ともに学び、ともに成長し、ともに働き続けられる職場』としてキャリアアップを目指しています。

診療日のご案内

	循環器内科	内分泌・糖尿病科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	整形外科	形成外科(午後のみ)	脳神経外科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻科	放射線科
月	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(△専門外来・予約制)

【受付時間】
〈平日〉8:40~11:00
※皮膚科〈月曜〉14:00~(予約制)

【休診日】
土曜日・日曜日・祝日
年末・年始(12月29日~1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】
〈平日・土曜日〉13:00~20:00 〈日曜日・祝日〉11:00~20:00

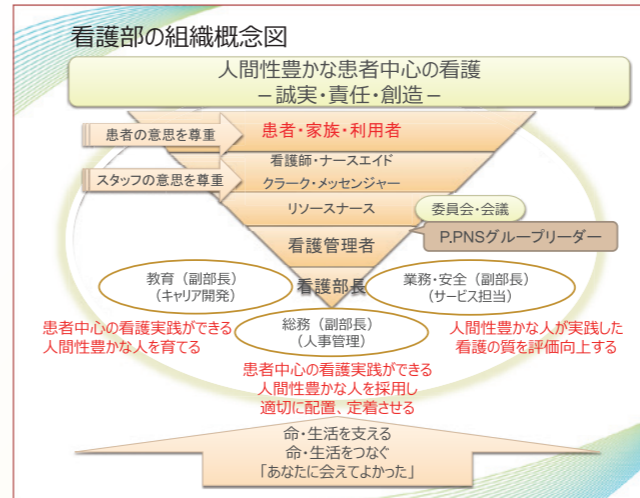
交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合
西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分
JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合
九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分
県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。
※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。



人間性豊かな患者中心の看護
ー誠実・責任・創造ー

ともに学び、ともに成長し、ともに働き続ける

「看護の力」・ともに命・生活を支えるその一人になりたい
声なき声も聞いてもらって…

「あなたに出会えてよかった」

看護実践で感動を起こす！
何があっても、そこに向き合う看護の力が理念実現を果たす！
看護の力で選ばれる病院！



コロナ禍の今、看護師として心に寄り添うこと

昨今、新型コロナウイルス感染症という未知の感染症で、人と人は「距離を置く」が重要視され、患者さんとの距離、家族との距離を遠ざけています。当院では感染対策を徹底し「心に触れる」看護を大切にしています。心の距離を「そばに居る」と感じさせる「ガラスドア越し面会」、「電話看護」、「手紙看護」を取り入れ、家族とも繋がる・支える看護を実践しています。ナイチ

ンゲールの教えである三重の関心の「知的関心」を患者さんに向け、心のこもった「人間的関心」で患者さんに寄り添い、安心、安楽、安寧を提供する質の高い「技術的関心」で、看護を提供しています。コロナ禍の今、患者さんに声をかけ、手を差し伸べるその看護の行為が笑顔を作り、命・心を支えています。

患者さんのライフストーリーを大切に、患者さんの生活へつなぐ

臨床の現場は、患者さんと出会い、看護師と出会い、大きくは病院という環境と出会い、いろんな思い・感情が沸き起こっています。「人」という存在を大切に考える瞬間が看護を創造するのだと思います。

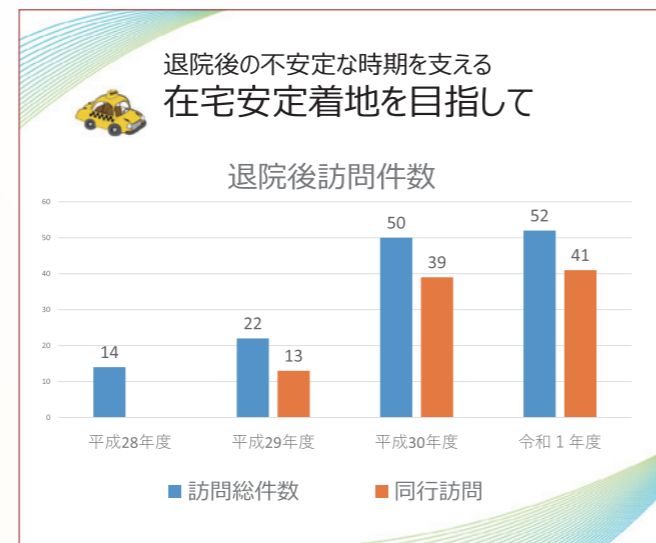
研修では勿論、臨床の現場でも患者さん・家族の思いを語り「どうすれば願いを叶えられるのか」と考え向き合っています。私たち看護部の思いは「看護に限界はない」が合言葉です。

臨床の現場には「命の現場の命の学び」があります。ナイチンゲールの「What it is and what it is not — 看護であること、看護でないこと」を軸に、看護を語り、看護の共感を呼び、チームの中で前に進む看護の力の創造を大切にしています。

昨年は年間52件の在宅訪問を行いました。その中で一人の終末期の患者さんが「透析をやめて家に帰りたい」と切なる思いを語られ、現場の医師・看護師、訪問看護師、在宅医がこの願いを叶えたのです。「命」の時間制限が感じられる中、思いを一つに迅速に対応し、

長年共に暮らした大切な愛猫に会えたのです。

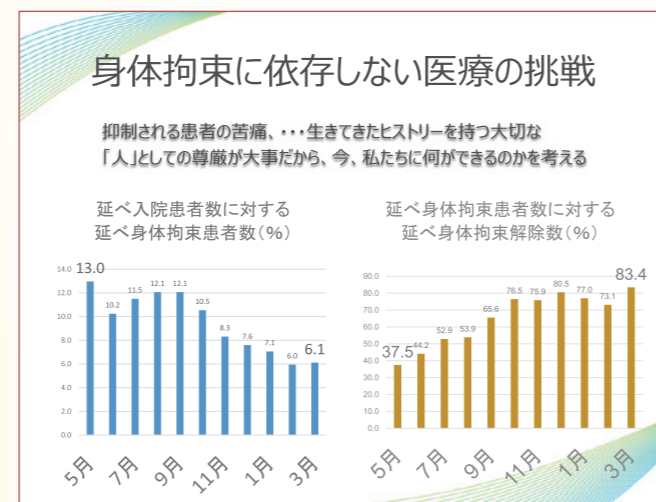
臨床の現場では、患者さん・家族との様々な出会いがあります。臨床の現場に埋もれている当たり前の看護の場面にも、共感の心揺さぶられる大切な物語があります。



身体拘束に依存しない医療への挑戦

看護部は3年前から「身体拘束に依存しない看護」に取り組んできました。「人間尊重」は、かけがえのない一人の「人」として患者さんを尊重し、患者さんの最善を考える、ということです。転倒させてはいけないという医療安全の壁、チューブを抜かれてはいけないという治療の壁、そして自分自身の不安の心の壁と向き合い「患者さんの心地よい」を届けることを目指しています。どうすれば患者さんは安心して過ごせるのかという看護の原点と向き合い、ユマニチュードの実践や、認知症看護、せん妄看護等の看護を実践しています。昨年は、身体拘束を13%から6%まで減少させることができました。また、身体拘束の解除は看護の工夫で83%まで上昇することができています。今年度からは、病院入ロージンとして「身体拘束に依存しない医療の挑戦」を掲

げ、患者さんにあたたかい医療を提供していきます。



ペイシェント-パートナーシップ・ナーシング・システム (Patient-PNS) 看護方式

PNSとは、2人の看護師が違いを活かし、相互に補完し合って、毎日のケアや委員会活動等の仕事に至るまで、年間を通じて成果と責任を共有する看護方式です。二人三脚で看護を実践することで、患者さんの安全・看護の質が保障されることを目的にしています。

平成25年に新病院開院とともに救急医療、高度医療の充実のため112名の看護師を迎えました。その際、患者さんの安全・安心をキーワードにPNSを導入し推進してきました。PNSでの二人三脚は、看護の実践をOJT(現場教育)の手法で学びあい、看護の質を向上させ、患者さんの安全と患者満足の上昇に繋がっています。

昨年、PNS発祥の福井大学の第三者評価受審で「九州一のPNSを実践できている」と承認を受けました。

今年度からは、新たに進化した福岡大学筑紫病院のPNSを、患者さんとともにある、**Patient-PNS**と命名しました。今後は、地域に開かれたPNSモデル病院とし

て、**Patient-PNS**看護方式の研修受け入れの開始を目指しています。

Patient-PNS看護方式体制 (二人三脚)
看護師が安全で質の高い看護を提供することを目的に、2人の看護師が互いの特性を活かし、相互に補完し合って、毎日の看護ケアをはじめ、委員会活動・係りの仕事に至るまで1年を通じて成果と責任を共有する

私たちペアです

患者 A 患者 B 患者 C 患者 D

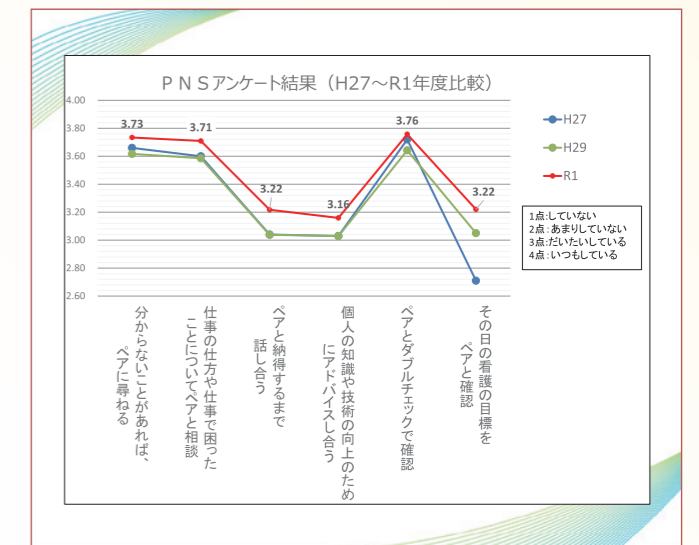
互いの特性・能力を活かし
互いの資源の共有
違いを認めて、
お互いに敬意を示し慮る

PNSマインド
与える心、複眼の心、自立・自助の心
PNSの3要素
信頼・慮る・尊重

PNSに対する患者さん、看護師の声

患者さんの声
2人で見てくれて安心する。
自分の担当が分かるので安心する。
経験の浅い看護師の方の勉強にもなるし、自分たちも安心する。
(家族より)
2人でよく話しながら来てくれて、患者をしっかり見てくれる。ずっとここ(筑紫病院)にいたい。

看護師の声
ペアで患者を受け持つことで、常に安心感があり話し合いながら看護ができる
看護師の看護の質の差をできる限り少なくできる
お互いの看護を可視化できる。
お互いの利点、欠点を補完しあえる
そばで他の看護師の看護を見て学べる
OJTを実践しやすい
知識の共有を行いやすく、患者のアセスメントが充実する
PNSでコミュニケーションが充実すると全体的に風通しが良い働きやすい環境になる
わからないこと、困ったことをペアにすぐに相談できる



▲看護部スタッフ
(左から) 蔵園円(教育担当主任看護師)、渡邊直美(副看護部長)、奥園夏美(副看護部長)、樋口靖子(看護部長)、福本洋美(副看護部長)、豊田亜理沙(事務)